

大学祭のパンフレットから

1、学生各位の健闘を讃える

年々歳々花相似たり

歳々年々人同じからず

天水の丘にも秋が来て、今年も大学祭の時となった。毎年毎年大学祭は同じようにやって来るが、大学祭をとり行う学生の顔ぶれは年とともに変わって同じではない。昨年は昨年で、一昨年は一昨年で、それぞれの学生が、それぞれにテーマを掲げ、青春の情熱をかたむけて、大学祭を成功させて来た。それは、それぞれに個性のある立派な大学祭であったと思う。

本年、学生が掲げた大学祭統一テーマは Hand in Hand として、それは、本年度の学友会が掲げた年間行動目標と見てもよい。確かに、学園は手狭



昭和50年 倉敷取材旅行

になった。学習活動の上からもクラブ活動の上からも、千二百余の学生の活動には制約がある。しかしながら、学友会々長は、年度初めのリーダートレーニングの場において、「協力と互譲」の精神を説いて

とすけ合おう、手をつなごう、そして充実した大学生活を送ろう。
と呼びかけている。

既に、その呼びかけの成果は、学内球技大会において顕著であった。ともすれば、孤独に陥りやすい現代社会の中で、共にチームを組んで選手として試合に出場し、また、手をとる肩を寄せ合って応援することで得た和合の精神。そこにこそ充実した大学生活は生れる。大学祭は、球技大会と共に学友会主催の二大行事。互に「手をとって合っ」て」各科各クラブの一年間の研究の成果を発表して欲しい。

折角、健闘されんことを冀うものである。